

東京都福祉サービス第三者評価 評価結果

評価結果基本情報

評価年度	令和7年度
サービス名称	認可保育所
法人名称	中野区
事業所名称	白鷺保育園
評価機関名称	有限会社 T C P

コメント

経営層および職員の事前説明には、評価の理解を深めて頂く為、評価の全体像や記入要領等を用いた分かりやすい資料を作成し、配布しました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果には、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表によるできるかぎりわかりやすいとりまとめを行いました。

(内容)

- I 事業者の理念・方針、期待する職員像
- II 全体の評価講評
- III 事業者が特に力を入れている取り組み
- IV 利用者調査結果
- V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）
- VI サービス提供のプロセス項目

公益財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

I 事業者の理念・方針、期待する職員像

1	理念・方針（関連 カテゴリー 1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など） 1)安心な生活環境や様々な活動体験を通して、子ども一人ひとりが生き生きと自分の力を発揮し、人との関わりの中で人に対する愛情と信頼感を育て、生きる力の基礎を培っていく。 2)子どもの最善の利益のために、一人ひとりの保護者の状況を理解し、保育をわかりやすく伝える中で、成長の喜びを共感しながら楽しい子育て支援を進める。 3)職員一人ひとりが保育園職員として職務及び責任の理解と自覚を持ち、明るい挨拶と連携のとれた関係の中で専門性を高め、保育の質の向上に努める。 4)地域の関係機関や専門機関と連携を図りながら、地域における子育て支援の拠点として子育て等に関する相談や情報提供、保育や行事体験などを進める。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー 5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 子ども一人ひとりの発達や経験、多様性を踏まえ見通しを持った保育ができる 子どもに温かく受容的、応答的に関わりことや、子どもの心の声を聞くことの大切さを理解し、実践できる 問題解決に向かって、他の職員と協力し、前向きに取り組むことができる
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 気づいたことを自ら発信し、職員間の意見交換を積極的に行いながらチームで問題解決にあたる姿勢を持ってほしい。 子どもの最善の利益を第一に考え、困難なことにもあきらめず、仲間と協力しながら保育に取り組む姿勢を持ってほしい。

II 全体の評価講評

全体の評価講評

特に良いと思う点

1	行事等の取り組みに際し、職員がチームワーク良く協力して保育園全体で作り上げ、子どもも保護者も楽しくうれしい思い出になっています 一つの行事などの事柄を企画実行するのに際し、担当に任せきりではなく、全職員がアイデアを出し合って一致協力してチームワークよく作り上げ、全職員が一緒になって取り組む協力体制が培われています。また、運動会や大きくなった会等は、結果だけでなく頑張ったことを認めてもらえるように当日までの取り組みの様子をクラスだよりや連絡帳、今日の活動で保護者に知らせ、親子で楽しみに当日を迎えられるようにしています。保育園全体で行事を作り上げた結果、子どもにとって楽しくうれしい思い出に残る行事となっています。
2	子ども主体の保育の実践・子どもの気持ちを尊重した取り組みをしています 子どもの自主性・主体性を尊重し、子どもの意思を大切に保育しています。運動会や大きくなった会などでは、子どもたちの意見やアイデアを尊重して、子どもたちがみんなで力を合わせて取り組めるように支援し、子どもたちが力を合わせて目標に向かって取り組んだり、完成させて達成感を味わったりできるようにしています。子どもたちの考えややりたいことの提案を尊重し取り入れながら、行事や日常の保育を構成するように取り組んでいます。
3	職員一人ひとりが自らの役割と責任を認識し、自分の言葉で発信し互いを認め合う組織風土が醸成されています 年度当初に、当年度の重点課題と目標について具体的に職員間で共有しています。職員一人ひとりも年間の目標を設定して、組織の一員である認識をもって業務にあたる姿勢をもってしています。新規採用職員や若手職員も多いことから、細かな確認や伝達を行い、職員それぞれが報告・連絡・相談の大切さを認識しています。経営層も職員の意見を聞き、寄り添うことを大切にしています。会議や園内研修で職員一人ひとりが自分の言葉で発信できる機会を作るほか、職員用の意見箱の設置など、職員が意見を言いやすく互いに認め合う組織づくりに取り組んでいます。

さらなる改善が望まれる点

1	職員間の連携と情報共有に取り組んでいますが、様々な状況の利用者に向けた個別配慮等の共有について引き続き工夫されることを期待します 全職員の協力と連携のもと、子どもたちの最善の利益を考えた安全な保育の提供を徹底しています。また、そのために必要な職員体制の維持について、区との情報共有のもと人材確保にも努めています。円滑な園運営には、経験や雇用形態の違いがあっても互いを認め合う連携を大切に、職員一人ひとりが自らの役割と責任を認識して業務にあたっています。しかしながら、非常勤職員との情報共有等については、課題が職員間で認識されています。連携のために必要なことを正規職員と非常勤職員が認知し合い、さらなる情報の一元化や見える化の工夫を期待します。
2	園内研修や若手職員の育成等を通じて、保育園全体の高い業務水準を確保し、さらなる保育の質の向上を図っていくことが期待されます 保育園の人材構成において、大きく分けると若手職員・中堅職員・ベテラン職員と経験年数等で分類されると思います。キャリアやスキルによっては、それぞれの保育の質に差が出ると思います。高い業務水準を保つためにも、若手職員からベテラン職員まで、それぞれの人材育成に向けて、園内研修、若手職員への指導、指導によるスキルアップ等の機会を通じて、専門性が高いさらなる保育の質の向上を図っていくことが期待されます。
3	子どもの主体性をはぐくむため、職員間で話し合い、さらなる環境設定の検討や工夫を進めていくことが期待されます 園庭の環境、遊具の配置、さらに、こんな遊具があるといい等、職員一人ひとりのアイデアや工夫は、多様に考えられていると思います。また、室内環境は、棚の配置、遊具の収納等、あらためて見直しを行うと、さらにあそびやすくなったり、子どものあそびの幅が広がったり、効率的になったりすることと思われます。子どもの主体性をはぐくむため、今後は、職員のアイデアや工夫等を職員間で話し合い、さらなる環境設定の検討を進めていくことが期待されます。

III 事業者が特に力を入れている取り組み

1	★ 保育の質ガイドラインに基づいた適切な保育の実施に努めています 守るべき法、倫理、規範等について、職員は新採用時に区の研修で学んでいます。子どもの最善の利益を守り、一人ひとりの子どもの発達に適切な援助を行うための基本的な指針として「中野区保育の質ガイドライン」が策定されており、園内研修で活用し、適切な保育に取り組んでいます。また、子どもを尊重する保育のため、人権擁護のためのチェックリストを用いた自己点検を全職員が行っています。さらに日常的に職員一人ひとりが常に指針を考慮した保育を実施しており、職員自己評価の結果からも法・規範・倫理について高い理解度がうかがわれます。
関連評価項目 (社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる)	
2	★ 子どもの主体性、意思を尊重した保育にちからを入れています 大きい子の伝承遊びや作品展示などに小さい子のクラスの子も刺激を受け、自然な異年齢の関わりが見られています。子どもがクラスのなかの遊具に興味を示し関心が持てるように遊具棚には、いろいろなおもちゃなどが一目でわかるように整然と並べるなど環境設定しています。乳児クラスも園庭で、畑や落ち葉置き場での虫探しをしたり、水槽や池でのメダカ探しをするなど興味をひろげています。子どもの自主性・主体性を尊重し、保育の中で子どもの気持ちを尊重した取り組みにちからを入れています。子どもが主体の保育の実践に努めています。
関連評価項目 (子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている)	
3	★ 専門性を高め保育の質の向上をめざし人材育成に力を入れています 日常の保育において、明るい対応で専門性、保育の質の高い保育サービスを提供できるように支援しています。保護者のいろいろな相談、質問などに、どの職員でも保護者に寄り添って対応できるよう、専門性を高め、保育の質の向上に園内研修や外部研修、ベテランからの指導などに力を入れています。どの保育業務でも誰が取り組んでも、専門的な質の高い同質の保育サービスを提供できるように力を入れています。
関連評価項目 (保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている)	

IV 利用者調査結果

調査概要

調査対象： 調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。なお、利用者総数（107名）に対して、世帯数は85世帯となっています。
調査方法： アンケート方式 園より保護者に利用者調査調査票および調査案内を配布して頂きました。アンケートは、WEBアンケートおよび調査票により、実施いたしました。アンケートの回収については、WEB上での回答もしくは、回収箱や評価機関への郵送で投函して頂くようにしました。

利用者総数	107人
利用者家族総数（世帯）	85世帯
アンケートや聞き取りを行った人数	85人
有効回答者数	61人
回答者割合（％）	71.8％

総括

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか」との質問に対して、「大変満足」52.5%、「満足」41.0%、を全て足すと93.5%の回答率となっており、園に対して保護者の高い満足度がうかがわれます。個別の項目についても「はい」と回答している結果が多く、満足している状況がうかがえました。特に「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」などは、「はい」の回答率が98.2%と満足度が高い結果でした。

利用者調査結果

1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか							
はい	60人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
この項目では、60人が「はい」と答え、全体の98.4%を占め、「どちらともいえない」が1.6%、「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、集団の中で友達と一緒にすすく育っていると思いますなどの声が聞かれました。							
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか							
はい	59人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
この項目では、59人が「はい」と答え、全体の96.7%を占め、「どちらともいえない」が3.3%、「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、保育園で歌った歌を家でも歌ってくれたり、絵本を覚えて帰ってきたり、楽しかったんだなと感じていますなどの声が聞かれました。							
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか							
はい	51人	どちらともいえない	10人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
この項目では、51人が「はい」と答え、全体の83.6%を占め、「どちらともいえない」が16.4%、「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、家ではなかなか用意できないようなバリエーションで出していただけであり、ありがたいですなどの声が聞かれました。							
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか							
はい	53人	どちらともいえない	6人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
この項目では、53人が「はい」と答え、全体の86.9%を占め、「どちらともいえない」が9.8%、「いいえ」が3.3%という結果でした。また、自由記入の結果では、夏は水遊び、涼しくなってからはお散歩しているようですなどの声が聞かれました。							
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか							
はい	40人	どちらともいえない	5人	いいえ	1人	無回答・非該当	15人
この項目では、40人が「はい」と答え、全体の65.6%を占め、「どちらともいえない」が8.2%、「いいえ」が1.6%という結果でした。また、自由記入の結果では、いつも助けていただいていますなどの声が聞かれました。							
6. 安全対策が十分取られていると思うか							
はい	45人	どちらともいえない	15人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
この項目では、45人が「はい」と答え、全体の73.8%を占め、「どちらともいえない」が24.6%、「いいえ」が1.6%という結果でした。また、自由記入の結果では、保育園の門前が車の通りがあり少し危なく感じますなどの声が聞かれました。							
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か							
はい	50人	どちらともいえない	8人	いいえ	2人	無回答・非該当	1人
この項目では、50人が「はい」と答え、全体の82.0%を占め、「どちらともいえない」が13.1%、「いいえ」が3.3%という結果でした。また、自由記入の結果では、年間スケジュールもありますし、運動会も涼しい月に変更と、配慮を感じてますなどの声が聞かれました。							
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか							

はい	41人	どちらともいえない	19人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
この項目では、41人が「はい」と答え、全体の67.2%を占め、「どちらともいえない」が31.1%、「いいえ」が1.6%という結果でした。また、自由記入の結果では、都度相談していますなどの声が聞かれました。							
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか							
はい	55人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
この項目では、55人が「はい」と答え、全体の90.2%を占め、「どちらともいえない」が6.6%、「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、用務さんや先生方が綺麗にしてくれてるなどの声が聞かれました。							
10. 職員の接遇・態度は適切か							
はい	45人	どちらともいえない	9人	いいえ	5人	無回答・非該当	2人
この項目では、45人が「はい」と答え、全体の73.8%を占め、「どちらともいえない」が14.8%、「いいえ」が8.2%という結果でした。また、自由記入の結果では、いつも清潔にされていると思いますなどの声が聞かれました。							
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか							
はい	55人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
この項目では、55人が「はい」と答え、全体の90.2%を占め、「どちらともいえない」が6.6%、「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、怪我した時はすぐに連絡をくれ、どういう経緯で怪我に至ったのか、細かく教えて下さいましたなどの声が聞かれました。							
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか							
はい	36人	どちらともいえない	16人	いいえ	2人	無回答・非該当	7人
この項目では、36人が「はい」と答え、全体の59.0%を占め、「どちらともいえない」が26.2%、「いいえ」が3.3%という結果でした。また、自由記入の結果では、まだその現場を見たことも経験したこともありませんので、何とも言えませんなどの声が聞かれました。							
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか							
はい	51人	どちらともいえない	7人	いいえ	1人	無回答・非該当	2人
この項目では、51人が「はい」と答え、全体の83.6%を占め、「どちらともいえない」が11.5%、「いいえ」が1.6%という結果でした。また、自由記入の結果では、子どもの性格をわかってくれていて、ゆっくりでいいよ！と寄り添ってくれますなどの声が聞かれました。							
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか							
はい	49人	どちらともいえない	7人	いいえ	0人	無回答・非該当	5人
この項目では、49人が「はい」と答え、全体の80.3%を占め、「どちらともいえない」が11.5%、「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、プールや水遊びの時も、近隣から着替えが見えないよう配慮いただいていますなどの声が聞かれました。							
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか							
はい	49人	どちらともいえない	10人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
この項目では、49人が「はい」と答え、全体の80.3%を占め、「どちらともいえない」が16.4%、「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、面談の時も分かりやすく説明してくれますなどの声が聞かれました。							
16. 利用者の不満や要望は対応されているか							
はい	47人	どちらともいえない	6人	いいえ	1人	無回答・非該当	7人
この項目では、47人が「はい」と答え、全体の77.0%を占め、「どちらともいえない」が9.8%、「いいえ」が1.6%という結果でした。また、自由記入の結果では、しっかり対応してくださっていると感じますなどの声が聞かれました。							
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか							
はい	37人	どちらともいえない	10人	いいえ	6人	無回答・非該当	8人
この項目では、37人が「はい」と答え、全体の60.7%を占め、「どちらともいえない」が16.4%、「いいえ」が9.8%という結果でした。また、自由記入の結果では、知らなかったが、聞き漏らしていたり聞いていたが忘れてたりするだけだと思うなどの声が聞かれました。							

V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）

カテゴリー1 リーダーシップと意思決定			※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-
サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている			
	評価項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している	実施状況
	標準項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	標準項目2	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	評価項目2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	実施状況
	標準項目1	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○
	標準項目2	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○
	評価項目3	重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容に関係者に周知している	実施状況
	標準項目1	重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○
	標準項目2	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○
	標準項目3	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○
講評			
区の保育理念、園目標と保育方針を職員と保護者の理解が深まるよう努めています 中野区の保育・教育の考え方は、「中野区保育の質のガイドライン」に明示されており、職員は入職時に区の職員、区立園の職員に向けた研修で学んでいます。また、園目標と保育方針について、「年度初めの確認事項」に記載し、職員間で確認し合い、理解を深めています。保護者には、入園説明会でスライドを使って区立保育園の運営方針や園目標、園の保育方針を説明し、毎年春の保護者会でも改めて園目標と保育方針とともに、クラス目標を伝えています。毎月の園だよりやクラスだよりでは、保育の中で大切にしていることを伝えています。			
経営層と職員が各自の役割や園の課題を共有し、保育と業務の実践に努めています 園長と副園長、主査2人が園の経営層として、園運営を推進し、それぞれの役割と責任を会議等の際に職員に伝えています。職員一人ひとりの役割は年度の職員体制や職務分担表で明示し、クラス担任表ではそれぞれのクラス・職務での期待するところを明らかにして伝えています。会議や職員の個別ヒアリング、日ごろの会話を通して、職員が各自の役割に取り組めるよう促しています。経営層は園の課題について常に共通意識をもてるよう心がけ、リーダー職には各種会議にその立場で参加してもらい、職員の意見の吸い上げや助言指導を実践してもらっています。			
重要案件の検討と決定方法を事前に定め、園内での的確な周知と共有に努めています 園の重要な案件を話し合う打合せについて、開催頻度や目的を定めています。月2回行う職員会議を検討・決定、情報共有と周知を主としつつ、そのほかの打合せで事前検討や職員間の即時の情報共有を実施しています。会議や打合せに参加できなかった職員には、会議録等の回覧、決定や変更事項の掲示、口頭での再確認等、周知徹底されるよう努めています。重要案件の保護者への周知は、告知のタイミングに配慮するほか、内容によってアプリ配信や園だより、掲示等の方法を利用するほか、保護者会での丁寧な説明で伝えることもあります。			

カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-
サブカテゴリー1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			
	評価項目1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	実施状況
	標準項目1	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○
	標準項目2	事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○
	標準項目3	地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○
	標準項目4	福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○
	標準項目5	事業所の経営状況を把握・検討している	○
	標準項目6	把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○
サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる			
	評価項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	実施状況
	標準項目1	課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○
	標準項目2	中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○
	標準項目3	策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○
	評価項目2	着実な計画の実行に取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○
	標準項目2	計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○
講評			
利用者の意向や職員の気づき、地域情報等から、課題を抽出し園内で共有しています			
区内公立園共通項目で園についての保護者アンケートを毎年度末に実施しています。結果は職員間で共有し、改善点について検討しています。そのほか、行事後の感想や日ごろの保護者の思いを連絡帳や日常の会話等から把握するよう努めています。職員の意向把握に努め、個別面談や会議等の際の発言、日常の会話、また職員専用の意見箱も設置しています。月2回の区立園園長会や地区懇談会等への参加、自治体からの情報提供などから、地域の福祉ニーズや保育の課題把握に努めています。様々な情報から園の重点課題を抽出し、職員間での共有に努めています。			
区の中期的な計画を踏まえ、園では事業計画をはじめ各種計画を策定しています			
区の子ども・子育て支援の5か年計画が策定されており、区立園園長会で共有されています。その内容を踏まえて、園では年度ごとに事業計画を策定しています。年度の保育運営について、職員体制や役割、年間予定、会議体を定めるとともに、園の重点課題を危機管理、保護者支援、地域支援および連携、効率的な事務執行、保育の質向上の項目ごとに具体的に挙げています。保育については、全体的な計画と年間指導計画を作成し、職員間で共有しています。区の計画に基づいた園の予算が共有されており、年間の計画と連動させ予算を執行しています。			
保育と行事についての計画は実践後に振り返りを職員間で共有し、改善につなげています			
年度の園運営について事業計画で明確にし、実施状況については年度末に事業報告を作成しています。保育については、全体的な計画と年間指導計画などを策定して実践し、各計画は実施後、月ごと、期ごと、上半期、年度末に職員会議で評価・反省を共有して、次期の計画に反映しています。行事についても実施後の反省とともに、保護者の感想なども集約して、次回の計画時に生かすよう努めています。また、クラス運営について前期と年度末での評価・反省を実施しています。さらに、園の重点課題の評価・反省を職員間で確認されることにも期待します。			

カテゴリー3 経営における社会的責任			※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-
サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			
	評価項目1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○
	標準項目2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○
サブカテゴリー2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			
	評価項目1	利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	実施状況
	標準項目1	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○
	標準項目2	利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○
	評価項目2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	実施状況
	標準項目1	利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○
	標準項目2	虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○
サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
	評価項目1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○
	標準項目2	ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○
	評価項目2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○
	標準項目2	事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○
	標準項目3	地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○
講評			
倫理や規範、遵守すべき法令について理解し、自己点検と実施の徹底に努めています			
守るべき法、倫理、規範等について、職員は新採用時に区の研修で学んでいます。保育園就業心得で職員の服務心得について明文化し、この内容に沿った確認を年度初めの職員会議で実施しています。「子どもの幸せにつながる保育」について定める区の保育の質ガイドラインを保育全般の礎として、保育の質の向上に努めています。また、人権擁護のためのチェックリストを用いた職員自身の自己点検を実施して、結果は園長と共有しています。そのほか、日常的に互いの保育を確認し合い、会議で改善点等を検討し、適切な保育の実施徹底に取り組んでいます。			
利用者の権利を擁護するため、苦情解決と虐待防止の仕組み、体制を整えています			
園の苦情解決制度について区立保育園のしおりに掲載し、入園時の説明会で伝え、園の玄関にも掲示しています。また、年度初めの保護者会や園だよりで、意見や要望を受け付けていることや意見箱の利用を伝えています。保護者からの要望・意見・苦情への対応について、年度初めの職員会議で職員に再通知し、園内での速やかな報告と検討、内容や対応経過の記録と状況に応じた区との共有で、丁寧な対応に努めています。虐待については園内での防止のための振り返り、早期発見と対応のための学びを実施し、発見時の関連機関との連携体制を整えています。			
区の公立園として、地域における子育て支援拠点の役割と発信に努めています			
区のホームページに園紹介があり、園の施設や雰囲気がわかる動画や園の具体的な活動を写真入りで紹介しています。また、園概要を記載した園のリーフレットをダウンロード可能にしています。次代の保育者を育てるための保育士養成校や子育て支援員の実習、小中高生のふれあい体験等を、区を通して受入れています。区立園長会や地域懇談会、学校運営協議会等への参加により、地域の福祉ニーズの把握に努めています。区内の子育て家庭の特徴やニーズを捉え、地域の子育て支援拠点として子育て家庭への支援、子どもたちと地域の交流等に取り組んでいます。			

カテゴリー4 リスクマネジメント			※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-
サブカテゴリー1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			
	評価項目1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○
	標準項目2	優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○
	標準項目3	災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○
	標準項目4	リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○
	標準項目5	事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○
サブカテゴリー2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
	評価項目1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	実施状況
	標準項目1	情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○
	標準項目2	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○
	標準項目3	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○
	標準項目4	事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○
講評			
各種マニュアルを基にリスク対応を学び、事故やケガの未然防止に努めています			
安心・安全な保育園として、事故とケガ、震災や風水害、感染症に対して、安全計画等を策定し、各種マニュアルを基に対策を講じています。チェックリストを基に月1回の安全点検を行うほか、5月は散歩コース、6月はプールなど月ごとに重点箇所を定めた点検も実施しています。事故やケガの発生、ヒヤリハットの記録を残して、事故防止と再発防止のため職員会議等で共有し、改善策等の検討を行い、職員間に周知しています。そのほか午睡時のチェックや誤嚥・誤食への対応、水遊び監視などを学ぶ機会を作り、連絡・報告フローも定期的に確認しています。			
災害・風水害は区と連携して対策を講じ、園では計画的に対応訓練を実施しています			
園では火災や地震、風水害への対応のため、自衛消防訓練計画を策定して、様々な場面を想定した訓練を毎月実施しています。訓練後は評価・反省を記録し、次回以降の改善に生かしています。区の地域防災計画があり、災害に対応した区立保育園の事業継続計画BCPが策定されています。災害や風水害発生時には子どもは家庭で引き取ってもらうことを基本とする旨を区立保育園のしおり等に記載しています。また、園の災害対策の取り組みや避難場所などは、園だよりや保護者会等で定期的に知らせるほか、保護者の引き取り訓練への協力を依頼しています。			
文書と機密情報の管理等について区の規程があり、職員は適切な運用を徹底しています			
文書の分類、保存と廃棄は、区の管理基準で実施し、機密書類の持ち出しには制限を設けています。個人情報を含む機密情報の管理について、全職員が入職時の研修で学ぶほか、年度初めの確認と毎年情報セキュリティ研修を受講しています。機密データを扱う機器を適切に使用・管理できるよう、PCやタブレットでのパスワードやデータのアクセス権限を設定しています。情報公開と個人情報保護については区の規程に基づいて運用し、保護者には入園時に説明しています。個人情報について、利用目的や開示等について記載した同意書の提出で確認しています。			

カテゴリー5 職員と組織の能力向上			※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-
サブカテゴリー1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			
	評価項目1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	実施状況
	標準項目1	事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○
	標準項目2	事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○
	評価項目2	事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	実施状況
	標準項目1	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○
	標準項目2	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○
	評価項目3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○
	標準項目2	職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○
	標準項目3	職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○
	標準項目4	指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○
	評価項目4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○
	標準項目2	就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○
	標準項目3	職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○
	標準項目4	職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○
サブカテゴリー2 組織力の向上に取り組んでいる			
	評価項目1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○
	標準項目2	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○
	標準項目3	目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○
講評			
区の方針を明確にして、園と区との連携のもと人事と育成、配置が行われています 区の人材育成基本方針が、ホームページで公表されており、方針に基づく採用活動が各園の状況と要望を踏まえて行われています。区のホームページの職員採用ページで募集要項や説明会の実施、区立園の見学会について案内するほか、採用案内をダウンロード可能としています。会計年度任用職員の募集は随時掲載しています。区で人事管理システムを導入しています。園職員の意向や区の育成方針等を踏まえ、区立園内の人事異動が行われます。園内の職員配置は、園長が職員の経験年数のバランスや次年度以降の体制、本人の意向と育成を考慮しています。			
保育園職員のキャリアパスを明示し、連動する育成計画を職員と共有しています 区職員として目指すべき職員像が育成基本方針に明示されています。保育園職員のキャリアパスと人材育成の基となる「人材育成シート」が、中野区立園の園長会の検討で作成されています。経験年数と役職ごとに、保育士としての実践能力と組織的遂行能力について、具体的に求められるスキル等が記載されています。区の担当課が設定する実務研修やキャリアアップ研修を「人材育成シート」の内容と連動するよう、受講計画を策定しています。入職後間もない職員の指導には、配置先でのOJTのほか、サポーター制度で先輩担当者が丁寧な対応に努めています。			
目標管理制度で能力向上を促し、職員が自分の意見を発信する機会を多く作っています 目標管理型人事考課制度を実施しており、職員は目標管理シートを毎年度作成して自らの役割を確認しています。職責や役割に見合う目標を設定できるよう「人材育成シート」の該当箇所を示したり面談等で支援して、成長を促しています。半期と年度末に達成度を自己評価し、面談で園長と共有しています。職員の就業状況を把握し、職員体制が厳しい時にはより丁寧にコミュニケーションを図りながら、職員のモチベーションの維持と向上に努めています。職員同士が互いに話しやすく、いろいろな職員が自分の言葉で発信できる機会づくりに取り組んでいます。			

サブカテゴリー1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

サブカテゴリー1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

サブカテゴリー1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）	
前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	園の保育方針として「保護者と一緒に成長を喜び、相互理解を深め、安心して預けられる保育園作り」を挙げています。そのため、保護者支援は保育園の重要な役割のひとつとして、保育の様子を知らせ、理解してもらうことを大切に考えています。そうすることで、保護者との信頼関係が構築され、保護者が子育ての楽しさを実感することにつながり、さらに子どもにとっての最善の利益にもつながるとし、保護者に寄り添い、子どもの成長を共に喜び合える関係づくりを目標としました。 保育が見える行事、保護者会、お便りの発行に取り組みました。 例年と同様の行事を実施しましたが、クラスだよりでは、子どもたちが行事に向かって準備していく様子を伝えることを心がけました。 年間を通して行事後には、「保育が見える行事」という取り組みの観点でも評価・反省を行い、行事によってはより子どもの自主性に重きを置いていきたいという意見が職員からありました。こうした行事の目的や保育者のねらいも保護者に予め伝えながら、次年度以降も「保育が見える行事」に取り組むこととしています。	
評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
【講評】 保護者支援を保育園の重要な役割のひとつとして、保護者との信頼関係構築とともに、保護者に子育ての楽しさを実感してもらうことが子どもにとっての最善の利益につながると園では考えています。そのため、「保護者に寄り添い、子どもの成長を共に喜び合える関係づくり」を職員間で重点目標として共有しました。 子どもの成長を共に喜び合える行事に焦点を当て、「保育が見える行事」に年間を通して取り組み、行事後には保護者からの感想にも着目しながら評価・反省を行いました。また、行事の開催についての評価だけでなく、子ども主体の保育をする中で、子どもにとっての自ら主体的に参加できる行事や活動についても模索しました。 次年度も「子どもの成長を喜び合える関係づくり」を重点課題として取り組むこととしており、キャンプごっこや作品展などの行事について見直し、子ども自らがやりたいと思える活動をしていくことを、年度初めの保護者会で伝えています。 P D C Aサイクルを意識した取り組みが実施されています。今後はさらに、目標に対して園または職員として年度末の目指すべき姿をさらに明確にし、その達成具合をどのようにして測るのか検討されることにも期待します。		
評価項目2	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）	
前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	若手職員も多く加わっていく職員体制を踏まえ、職員一人ひとりが思ったことや気づきを言葉にして発信できることを大切にしています。保育の質の向上を図るうえで、全職員が積極的な意見交換をし、互いの良さを認め合い協力して保育を行うことを目標としました。 区の保育の質のガイドラインを活用した園内研修や職員会議を通して、若手職員とベテラン職員が保育について互いを尊重した意見交換を行うことに取り組みました。また、気づいたことを気軽に発信できる仕組みとして、職員用のご意見箱を設置しました。 園内研修では少人数でのグループ討議により、さまざまな職員の発言の機会を増やすことができました。職員用ご意見箱の活用で、箱に入れられた意見を基に検討し、改善に取り組むことが、小さな気づきの発信の定着へとつながりました。 引き続き、保育の質の向上を図るうえで、互いの良さを認め合いながら率直な意見交換ができるよう取り組んでいます。職員用のご意見箱も設置を続けていますが、意見箱に意見を投入するのではなく直接発信できるようになってきています。	
評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
【講評】 若手職員も多く加わっていく職員体制を踏まえ、園としての重点課題「保育の質の向上」を図るうえで、全職員が積極的な意見交換をし、互いの良さを認め合い協力して保育を行うことを目標としました。 園内研修や職員会議などでの互いを尊重した意見交換に取り組み、気づいたことを気軽に発信できる職員用のご意見箱を設置しました。 区の保育の質のガイドラインを活用した園内研修では、たとえば年代別の少人数グループに分かれ「子どもの権利」について考える機会を作りました。それぞれが自分の子どものころの経験を話すことからはじめ、「子どもの権利」についてより具体的に理解を深めることができました。また、職員用ご意見箱の意見を、経営層や職員全体で検討することで、小さな気づきの発信の定着へとつながりました。 引き続き、保育の質の向上を図るうえで、互いの良さを認め合いながら率直な意見交換ができ、助け合える風通しの良い職員集団づくりを目標として取り組んでいます。 P D C Aサイクルを意識した取り組みが実施されています。さらに目標達成のための方法について、職員間で検討する機会を作ることに期待します。		

VI サービス提供のプロセス項目（カテゴリー 6）

カテゴリー 6 サービス提供のプロセス			
サブカテゴリー1 サービス情報の提供			
	評価項目1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	実施状況
	標準項目1	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
	標準項目2	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○
	標準項目3	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
	標準項目4	利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○
講評			
中野区のホームページや動画、パンフレット等でサービス情報を提供しています			
区のホームページで白鷺保育園の保育目標・保育方針・園の特徴など、基本的な概要を提供しています。動画サイトで施設案内の動画を配信しています。これは白鷺保育園を見学しているかのように説明しながら各部屋を回って案内していますので、これによって園内を詳しく知ることができるようになっていきます。資料では、保育園パンフレット、中野区保育所等の案内などを提供しています。保育園パンフレットには、園目標・保育方針・園児定数・職員配置・一日の流れ・行事などを掲載しています。英語のパンフレットも用意しています。			
保育園の情報は内容をわかりやすく表記し、関係機関や行政などにひろく提供しています			
保育園パンフレットには、外国人にもわかりやすいように、ひらがなを多く使用しています。園の情報は、月2回の園長会や年10回の副園長会で提供したり他園と共有したりしています。保育園・幼稚園課や教育委員会指導室、近隣の小学校、中学校、幼稚園、児童館などに園だよりなどを送付して、保育園の情報を提供しています。これらは、園だより送付リストに記録して、送付漏れのないようにしています。			
見学希望者の問合せには、日程調整して希望日に見学できるように配慮しています			
電話で予約を受け付け、可能な限り見学希望者の意向に沿って、日程調整をおこなっています。見学者対応は、主に副園長が担当し、施設案内だけではなく、楽しく過ごしている子どもたちの様子も見てもらえるように配慮しています。質問には丁寧に対応できるように、少数組で案内するようにして、疑問点が残らないようにわかりやすく詳しく説明しています。見学の際には、園庭開放や時期に応じて行事へのお誘いをしています。			

	サブカテゴリー２ サービスの開始・終了時の対応		
	評価項目1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	実施状況
	標準項目1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
	標準項目2	サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
	標準項目3	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
	評価項目2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	実施状況
	標準項目1	サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
	標準項目2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○
	標準項目3	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○
講評			
新入園児面接や入園説明会で園生活の基本的ルール、重要事項を説明しています 2月頃実施する新入園児面接や例年4月2日に実施する入園説明会で、中野区立保育園のしおり（重要事項説明書）や白鷺保育園入園のしおりを使って説明しています。中野区立保育園のしおりには、保育理念・保育目標・教育・保育の内容から説明し、19項目にわたって詳しく具体的に保育園生活の基本的ルールや重要事項を説明しています。白鷺保育園入園のしおりでは、日常の保育に必要なことや持ち物について、手提げ袋などイラスト入りで具体的に説明しています。個人情報開示等についての同意書及び入園説明確認書に署名をもらっています。			
入園に際し子どもの不安やストレスが軽減され安心して園生活に慣れるよう配慮してます 新入園児面接や入園説明会で、子どもの入園までの家庭での様子や保護者の就労状況など保育園生活に必要な情報は、すべて聞き取り、児童票、児童票健康観察記録、緊急連絡簿などにすべて記録し全職員で共有しています。それぞれの子どもの特性を把握し、保護者には、「慣れ保育のめやす」を配付して、登園初日には可能な限り親子で登園して過ごしてもらい、保育園を親子で知ってもらえるように配慮しています。慣れ保育期間中は、毎日様子を見ながら保護者と子どもの様子を話して安心してもらえるように配慮しています。			
サービスの終了に向け子どもや保護者が不安なく就学できるように支援しています サービスの終了に向けた保護者会では、小学校の話をして学校に対する理解を深めて不安の軽減を図っています。子どもたちは、今年度北野中学校へ行行ってふれあい体験をしてきました。はじめは緊張気味の子どもたちでしたが、一緒に楽しいゲームをするうちに仲良くなり楽しい体験になりました。小学生とも交流して、入学を身近に不安なく感じられるようになっています。就学には、保育所児童保育要録を小学校へ提出し、継続した支援につなげています。			

サブカテゴリー3 個別状況の記録と計画策定			
	評価項目1	定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	実施状況
	標準項目1	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○
	標準項目2	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○
	標準項目3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○
	評価項目2	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している	実施状況
	標準項目1	指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○
	標準項目2	指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○
	標準項目3	個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○
	標準項目4	指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○
	標準項目5	指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○
	評価項目3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している	実施状況
	標準項目1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○
	標準項目2	指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○
	評価項目4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	実施状況
	標準項目1	指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
	標準項目2	子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○
	標準項目3	子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○
講評			
定められた手順に従って子どもの心身状況や生活状況を統一した様式に記録しています			
子どもの心身の状況や生活状況は、児童票は0～2歳児は1ヶ月ごとに、3歳未満児は2ヶ月ごとに、幼児は期ごとに発達の状態を記録しています。児童票健康観察記録には健康面の記録や健康診断の記録、身体計測の結果を記録しています。保育日誌や個別日誌には、日常の保育や子どもの姿、保育士の関わり等を記録しています。毎月の指導計画や期の計画を作成し、個別の指導計画を立て、適切な援助につなげています。			
指導計画は全体的な計画を踏まえて中野区共通の指導計画を活用し作成しています			
中野区共通の指導計画を活用し、全体的な計画を年度初めに作成し職員全体で確認しています。クラスや子どもの状況に応じて加筆をおこなっています。個別の指導計画及び評価反省を0歳児、1歳児、2歳児と、幼児クラスの要支援児は毎月おこなっています。幼児については、期ごとにおこなっています。個別的な計画が必要な子に対しては、0歳児、1歳児、2歳児と幼児クラスの要支援児は、毎月個別の指導計画を作成して、毎月クラスで評価反省をおこなっています。			
日常の子どもの状況などに関する情報を記録し職員間で共有し共通理解しています			
毎月の職員会議では、それぞれのクラスで話し合った子どもの姿や援助の状況について報告し合い、内容を全職員で共有しています。毎週のフロア打ち合せでも、報告し合い、子どもの姿や援助の情報を共有し共通認識しています。子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報は、毎週月曜日の朝礼・職員会議・昼打ち合せ・フロア打ち合せで、全職員に情報共有しています。正規職員以外にも、朝礼簿や子どもの生活表の確認をしてもらっています。必要に応じて個別やグループ単位でのお知らせをしています。			

サブカテゴリー4 サービスの実施			
	評価項目1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	実施状況
	標準項目1	発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○
	標準項目2	子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○
	標準項目3	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○
	標準項目4	特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○
	標準項目5	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○
	標準項目6	【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○
講評			
それぞれの子どもの発達過程や家庭環境を把握したうえで保育をおこなっています 毎月のクラス打ち合せにおいて子どもの様子や家庭の様子を確認し、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで児童票とも照らし合わせ指導計画を作成しています。職員会議で子ども一人ひとりの姿を全職員に周知し、共有し適切な対応がとれるようにしています。乳児ではその子の様子から思いを読み取り、寄り添いながら言葉かけをして、関わり方を知らせています。			
子どもが主体的に周囲に関心を持ち、働きかけができるよう環境を設定しています 大きい子の伝承遊びや作品展示などに小さい子のクラスの子も刺激を受け、自然な異年齢の関わりが見られています。子どもがクラスのなかの遊具に興味を示し関心が持てるように遊具棚には、いろいろなおもちゃなどが一目でわかるように整然と並べて環境設定しています。乳児クラスも園庭で、畑や落ち葉置き場での虫探しをしたり、水槽や池でのメダカ探しをするなど興味をひろげています。制作活動では、興味を持ってやりたい子ができるように継続して取り組んでいます。			
要配慮児の保育は他の子どもと同じ生活環境で共に成長できるように援助しています 特別な配慮が必要な子どもの保育は職員会議や各クラス打ち合せにおいて全職員が子どもの姿を共有し、意見交換のなかでの気づきを活かし、他の子と同じクラスのなかで、状態によっていろいろ配慮しながら共に過ごして成長できるよう援助しています。加配が認められた場合は、職員を配置してクラスで集団保育をおこなっています。医療的ケア児在籍の場合も同じです。医療センターより訪問指導を受け、要支援児の関わり方の助言指導を受けています。			
	評価項目2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	実施状況
	標準項目1	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○
	標準項目2	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○
	標準項目3	休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○
	標準項目4	降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○
講評			
登園時には、保護者から家庭での子どもの様子について聞きながら受け入れています 乳児、幼児共に前日降園してから本日登園するまでの家庭での子どもの様子について、登園時に保護者から聞取ると共に、子どもの様子を観察して受け入れをおこなっています。子どもの発達の状態に応じて、食事や排泄などの基本的な生活習慣を身につけることによって、安定した発達につながる基である大切なことであることを保護者に個人面談や保護者会で伝えています。			
保護者には、基本的な生活習慣の重要なことを伝え身につくように援助しています 基本的な生活習慣の大切さについては、低年齢児の時から個人面談や保護者会などで伝えています。子ども一人ひとりの発達や様子に合わせた関わり方を保護者と共に考えるようにしています。子ども一人ひとりの成長に合わせた援助を送迎時などに保護者に伝えて援助しています。			
生活が安定するように個々の子どもの生活リズムに配慮した保育をおこなってます 子どもの成長発達に大切な日々の生活リズムについて、その日の体調や状況に合わせて配慮しています。特に0歳児、1歳児に対しては、保護者の話や連絡帳の内容から前日の睡眠時間を参考に、一人ひとりに合わせて個別に対応しています。眠れない子どもにも身体を休めることの大切さを知らせて休息をとれるように環境設定したり、寄り添った配慮をして改善に努めています。			

	評価項目3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	実施状況
	標準項目1	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○
	標準項目2	子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○
	標準項目3	子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○
	標準項目4	子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○
	標準項目5	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○
	標準項目6	生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○

講評

子どもが自主的、主体的に興味を持った物であそびができるように環境設定しています

子どもの自主性、自発性を尊重し、子ども一人ひとりが興味を持ったもので、じっくり遊べるように場所やあそぶ時間を確保したり、継続してあそびを楽しめるように飾り棚を用意したりしています。園庭では、ゆうぐごっこあそびや基地ごっこあそび、お家ごっこ、ができるように用意しています。室内では、文具や空き箱を用意するほか、お化けやしきごっこなど、子どもが、いろいろな遊具やものを見て考えて自主的にあそべる環境づくりをおこなっています。

子ども一人ひとりの状況に応じて言葉などで応答的なやりとりが養えるよう配慮してます

子ども一人ひとりの思いに寄り添い、子どもの発語や表現を受け止め、やりとりをしたり、話しかけたりするなかで、話すことのやりとりを安心して楽しめるようにしています。年中児は当番活動で食前の挨拶の号令をかけたり、年長児は人数報告をしたり、朝の会で献立の発表をしたりしています。それぞれ言葉でやりとりする場面をいろいろ設定しています。

戸外や園外活動で春夏秋冬の四季を感じられるように取り組みをしています

園庭で植物を栽培したり、虫探しができるような落ち葉置き場を設置したりして、子どもたちが植物の生長に触れ、いろいろな虫や幼虫など発見ができるようにしています。散歩では草花や樹木の季節の変化を楽しんだり、タンポポ摘みや、木の実拾いを体験できるように行き先を設定しています。樹木の多い散歩道では、鳥のさえずりを聞いたりや鳥り種類の違いを見たりして、楽しんでいます。

	評価項目4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	実施状況
	標準項目1	行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○
	標準項目2	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○
	標準項目3	子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○

講評

行事などの取り組みでは子どもが興味や関心を持ち積極的に取り組めるようにしています

職員会議で話し合い、伝承行事や季節の行事、運動会など、子どもたちにとって魅力的な内容になるように工夫して進めてきました。幼児クラスでは縁日ごっこや運動会など子どもたちが行事の内容や進め方について話し合いを重ねて、子どもたちの意見やアイデアを尊重して取り組みを進めるようにしています。

子どもが自分たちで協力して内容を考えて行事を作り上げるように配慮しています

運動会や大きくなった会を計画し、子どもたちが力を合わせて目標に向かって取り組んだり、完成させて達成感を味わったりできるように配慮しています。5歳児は子どもたちが自分たちで考えて、期待を持って取り組めるようお化け屋敷や運動会などの行事の取り組みをおこなってきました。

子どもたちが意欲的に行事に取り組めるように子どもたちのアイデア等を尊重しています

子どもたち主体の保育の中で、子どもたちの自主性、主体性を尊重し子どもたちが意欲的に行事に取り組めるように配慮しています。幼児クラスは特に子どもたちの考えや、やりたいことの提案を尊重し取り入れながら、行事や日常の保育を構成するように努めています。運動会や大きくなった会は、結果だけでなく企画準備で頑張ってきたことを保護者に認めてもらえるように当日までの取り組みの様子をクラスだよりや連絡帳、今日の活動で保護者に知らせています。親子で楽しみに行事当日を迎えられるようにしています。

	評価項目5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	実施状況
	標準項目1	保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○
	標準項目2	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○

講評

保育時間の長い子が安心して過ごせる環境になるよう配慮しています

子どもたちが安心して長時間過ごせるよう、生活空間とあそび空間は整理整頓、清潔になっています。朝夕の時間帯は人数が多いことを踏まえて、基本的に0歳児・1歳児・2歳児と幼児に分かれて当番を配置しています。保育時間の長い子どもが安心して遊べる落ち着いた環境になるように設定しています。事務室や多目的室もくつろげる場所として使用することもあります。

落ち着いて過ごせるように、長時間の子ども専用の遊具などをそろえています

長時間保育でも疲れを軽減できるように子どもが楽しく落ち着いて過ごせるように室内を整えて、早番保育や延長保育用の専用の遊具を取りそろえて日中とは違う遊具で遊べるようにしています。パズル・ゲーム・カードゲーム・積み木・電車など好きな遊具で遊べるようにセットしています。また、コーナー保育で落ち着いて遊べるように、職員の配置にも配慮をしています。

	評価項目6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	実施状況
	標準項目1	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○
	標準項目2	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○
	標準項目3	子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○
	標準項目4	食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○
	標準項目5	保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○

講評

子どもたちが楽しく、落ち着いて食事ができるように椅子、テーブルをセットしています

個々の子どもたちの身長や発達に合わせた食具を使用したり、テーブルの高さや椅子の高さを調整をしたりして、落ち着いて食べやすいように配慮しています。0歳児は、離乳食の段階を保護者と細かく話して、無理なくステップアップできるようにしています。食材確認表を活用し、家庭での食事の状況を確認して給食の提供をしています。

子どもの体調や文化の違いに応じた食事を提供しています

食事の献立は、区立保育園共通の献立で食事を提供しています。毎月、給食会議を実施し、食材や調味料を読み上げ、食物アレルギーや文化の違いに応じた宗教食対応について細かく確認しています。区のルールに則って、乳、卵は代替え対応し、それ以外の食品と宗教食は弁当対応とし、ネームプレートのをせたトレイ配膳で間違えないように提供しています。

食事にに関する関心を深めるための取り組みをおこなっています

食への感心を高めるために、園庭で野菜などを栽培しています。収穫した野菜を保育士が目の前でクッキングして食べる体験をして、食への興味と関心を高める取り組みをしています。ジャガイモの種芋を各家庭から提供してもらい、園で植えて、育てていく過程を親子で観察してもらえるように栽培しています。収穫した野菜は子どもたちが持ち帰って家で調理して食べるなど、家庭でも楽しんでもらえる取り組みを実施しています。

	評価項目7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	実施状況
	標準項目1	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○
	標準項目2	医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○
	標準項目3	保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○
講評			
看護師が計画的に健康教育に取り組んで子どもたちの健康意識を高めています 子どもたちに日常的な手洗いやうがいなどの方法を実演して教えたり、蛇口のところに絵入りの手順を張り出したりして、徹底して教えています。看護師は朝と夕方各クラスを巡回し、子どもたちの健康状態をチェックしています。靴の履き方や手洗いの仕方など、年齢や子どもの様子に応じて必要な事項を看護師と保育士が相談し健康教育を行っています。			
子どもたちの健康維持に向けた取り組みをおこなっています 入園時に嘱託医による健康診断で発育状況や疾病疾患などを把握しています。入園後も嘱託医による0歳児健診、春夏秋冬健診、歯科検診を実施し、保護者に結果を報告しています。看護師は毎日クラス巡回をおこない、子どもの様子を視診し、朝夕の送迎時では保護者からの健康相談にも応じています。			
日常的に風邪、インフルエンザなど感染症予防対策に取り組んでいます 冬季はインフルエンザがはやっているので、手洗いうがいやアルコール消毒など、漏れのないように取り組んでいます。インフルエンザに感染しないように最善の注意を払っています。感染症に関する情報交換も適宜おこない、看護師を中心に具体的な対応に取り組んでいます。中野区のサーベイランスで近隣の流行状況が把握できるようになっています。			
	評価項目8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	実施状況
	標準項目1	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○
	標準項目2	保護者同士が交流できる機会を設けている	○
	標準項目3	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○
	標準項目4	子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○
	標準項目5	保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○
講評			
子育ての状況や保護者の就労状況等、個々の事情に配慮した支援をおこなっています 入園面接などで、保護者の子育ての状況や就労状況など個々の事情を聞き取り、児童票や緊急連絡票に記録して全職員が内容を共有しています。入園面接で保護者が子どもをどのように育てたいかを確認すると共に、就労時間、通勤時間を考慮し、個々の事情に配慮して保育時間を決める支援をおこなっています。延長保育については保護者会で説明し、日々利用予約表を掲示しています。			
保護者同士や保護者と職員の信頼関係が深まるような支援をしています 年間2回の保護者会を実施していますが、保護者会の中で保護者同士が懇談できる時間を設定して交流できるように配慮しています。保育参加や保育参観でも保護者同士関わり合えるので良い関係に発展しています。毎日の送迎時など、職員は気持ちよい挨拶と声かけをおこなって、保護者が親しみを感じて信頼関係につながっています。また、年2回の保護者会や年1回の個人面談での丁寧な説明を心がけています。連絡帳や「今日の活動」の配信や写真入りのクラスだよりの配信など、いろいろな配慮で職員と保護者の信頼関係が深まるような支援をしています。			
子どもの発達や育児などについて保護者と共通認識を得られるように取り組んでいます 日々の保育の中で、口頭や連絡帳でいつでも相談に答えられるようにしています。保護者会や保育参加、保育参観、個人面談を通して子どもの日々の様子を確認し、現在の姿を保護者と職員が共通認識でき、共に子育てしている思いを共有しています。保護者からの相談にはいつでも寄り添って対応し支援しています。保護者会の出席率が高く、夫婦での参加も多く保育参加や参観も楽しみにしていて保育園への関心の高さが見られ、共に子どもの成長を見守っていくきっかけにつながっています。			

	評価項目9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	実施状況
	標準項目1	地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○
	標準項目2	園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○
講評			
地域資源を活用した交流をおこない、子どもの生活の幅を広げる取り組みをしています 子どもたちが多様な体験や交流ができるように、地域の中学生や高校生を受け入れて、ふれあい体験での交流をしたり、5歳児は近隣の小学校や中学校へ行き、いろいろなゲームをしたりして楽しく交流しています。今年度は地域施設でおこなわれるプラネタリウムにも参加してきました。地域資源の活用として、地域の方に来てもらい、園舎内の水槽の管理をお願いすることで、子どもたちが生き物と関わる機会を増やし交流の場ともなっています。5歳児は、地域の作品展に作品を展示してもらって、地域の方々とふれあっています。			
地域の方に園の行事への参加を呼びかけて、地域子育て支援の取り組みをしています 地域の方に園の行事に参加を呼びかけてしています。園庭開放を、今年度は毎週火曜日9時45分から11時45分の間実施しています。地域の方を対象に、電話あるいは面接による子育て相談を月曜日から金曜日の9時から16時まで受け付けるなど、地域子育て支援事業をおこなっています。地域の小さい子どもを持つ家庭を、ミニ運動会に誘って交流しています。新年こども会に地域の方に依頼して伝承遊びの指導や技の披露をしてもらっています。5歳児は、地域の方に教えてもらって、ペットボトルを使った風車作りを体験しています。			

	サブカテゴリ5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
	評価項目1	子どものプライバシー保護を徹底している	実施状況
	標準項目1	子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
	標準項目2	子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○
	評価項目2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	実施状況
	標準項目1	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
	標準項目2	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○
	標準項目3	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
講評			
子どものプライバシーの保護、個人情報の取り扱いについて管理を徹底しています 子どもに関する事項、情報を外部とやりとりする必要がある場合について、入園時の説明会において、重要事項である個人情報開示等について具体的に説明し、内容について理解し承諾を得たうえで同意してもらい同意書に署名してもらっています。実際に関係機関や学校、区のホームページなどとやりとりする場合は、その都度保護者に説明し確認を得たうえで、やりとりしています。			
子どもの羞恥心に配慮し、プライバシーの保護を徹底した保育をおこなっています 日常の保育の中で子どもの人権を守り、羞恥心に配慮し、プライバシー保護を徹底した保育をおこなっています。幼児は、身体計測・健康診断・着替えの際に、男女が別れて、周囲から見えないようにして着替えるように環境設定をして、羞恥心に配慮しておこなうようにしています。トイレの男児の小便器の両サイドにパーティションを設置して周囲から見えないように配慮しています。幼児は、プライベートゾーンについて健康教育として学習しています。			
日常の保育において子どもの権利を守り、人権を尊重した保育をおこなっています 日常の保育の中で子ども、一人ひとりの権利を守り、人権を尊重した保育をおこなっています。子ども一人ひとりの思いに寄り添って意思を尊重した保育を実践しています。要支援家庭や外国籍家庭を含め、それぞれの家庭の状況に配慮した保育をおこなって、個々の子どもが安心して楽しく遊べるように保育をおこなっています。職員は、子どもの人権を守るための研修を全職員が受講し、人権擁護のためのセルフチェックを実施しています。年1回、利用者アンケートを実施し、保護者の意向を確認し、園運営に活かしています。			

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化			
評価項目1		手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
	標準項目2	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○
	標準項目3	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
評価項目2		サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
	標準項目2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
講評			
手引書等を整備し、事業所が提供しているサービスや手順等を明確にしています 中野区における保育園業務の手引き書・マニュアルは、それぞれの業務ごとに明確に整備されており、その手引き書の手順に沿って業務を進めれば、同じ業務水準で取り組むことができるように明確化されています。保育園のしおり・当番の仕事・震災マニュアル・防犯マニュアル・アレルギー対応基準・延長保育マニュアル・保健衛生マニュアル・保育の質ガイドライン・区で定めたマニュアルなど、すべての業務について、提供しているサービスや手順等を明確にして整備されています。			
サービスの向上をめざして事業所の手順等、業務水準を見直す取り組みをしています 提供しているサービスの基本事項や手順等の改変や見直しの基準を定めています。年度末の時期や年度初めの時期など、保育園の運営に必要な時期に職員会議で見直しをおこなっています。各種業務における手順は、誰が取り組んでも同じ手順で、同じ対応ができるようになるように作業手順を見直し、職員会議で確認し、共通認識のもとに業務に取り組んでいます。定期的に区の指導検査（毎年）を受けており、3年に一度、第三者評価を受けて、サービスの向上に務めています。			
提供しているサービスの基本事項や手順等は保護者や職員の意見提案等を反映しています 保護者からのアンケートや職員からの日常の保育での意見、提案等は職員会議で検討しています。サービスの向上や業務水準の効率化、向上につながるものは、意見を反映し見直しをおこなって業務の標準化、サービスの向上につなげています。			